



特定非営利活動法人

# アジア・アフリカと共に歩む会

南アフリカ共和国貧困地域への教育支援

## TAAAの活動日誌 2022年

- ・ 2022-12-22 [現地からの活動報告](#)
- ・ 2022-10-13 [州農業省からのMOATS（ムタルメ有機農業塾）便り](#)
- ・ 2022-08-23 [最後の出荷作業](#)
- ・ 2022-08-11 [算数セットに感動する生徒たち](#)
- ・ 2022-07-23 [作業所閉鎖に伴う本・算数セット・サッカーボール収集終了のお知らせ](#)
- ・ 2022-05-30 [今年度もドウエシューラ学区の学校支援を続けます](#)
- ・ 2022-04-03 [IT技能指導ならびに図書委員会生徒によるITピア指導を実施しました](#)
- ・ 2022-03-24 [新型コロナウイルス禍に見舞われたまま明けた2022年の3月](#)

2022-12-22 南アフリカ

### 現地からの活動報告



九九カードを使ったレッスン



1から順に線を結んで絵を描く1年生

### 算数セットを活用した楽しい授業

第3学期（7-9月）は会報80号でもお伝えした通り、小学校での算数セットを利用した授業を中心に活動を行った。算数セットは基本的に小学校1-2年生用であるが、3年生でも基礎が十分にできていなかった生徒も多く、授業は効果があったと思う。おもちゃで遊びながら学ぶ授業は生徒たちにとっても喜ばれ、生徒の算数学習へのモチベーションにつながったことと思う。学期後半は、3年生が九九カードを使って隣の生徒と問題を出し合うレッスンや、公文が発行している英語版の算数テキストの中から、各学年に合った問題をコピーして配布し、生徒を飽きさせないような取り組みを行った。

### ダーバン港から荷物がやっと届きました！

第4学期（10-12月）は、日本から発送されたコンテナ貨物の受け取り準備と作業に追われた。これまで通関業者が行っていた輸入許可書の申請が、今年度から荷受人が直接行うシステムに変わったため、許可を出すITAC（International Trade Administration Commission）とメールのやり

取り、ダーバンの税関や税務署まで行ったり来たりで、これで果たして許可がもらえるのか落ち着かない日々が続いたが、11月30日に荷物がオフィスに無事届きホッとした。今回もコンテナを無償で手配して下さったONE(オーシャンネットワークエクスプレス)さん、日本側での通関作業を無償で行って下さったタカセさんには、TAAA南アフリカ事務所として、そして現地の学校・子供たちを代表して感謝の気持ちをお伝えしたい。



貨物搬入

### **司書教師の異動によって普及する学校図書活動**

輸入許可書申請待ちの間に、倉庫に残っていた高校生向けの本を先行事業の対象校ボンズワネ高とジョージンベレ高に寄贈した。また、クラス全体で利用できる数のあった新品同様の小説(Kazuo Ishiguro、遠藤周作等)は、対象高校に2-3冊ずつ配布し、あとはウグ郡教育省学校図書担当のンベレ氏に依頼して、活用できる学校に配布してもらうことになった。先行事業のムタルメ学区内で、当時支援できなかったンドウンゲ小へも本の寄贈を行った。同校の現在の校長は、元対象校エシバニ二小の司書教師だったゴベンダー先生で、少し前から本のリクエストを受けていて、やっと届けることができた。また、現在の対象学区(ドウエシューラ学区)内でプロジェクトに参加できなかったインコンバ小(R-4年生)にも本棚と本を届けた。同校は山間部で全校生徒数が49名と他校では1クラス分の人数であるが、隣の学校は山をいくつも越えるようで、低学年の生徒が通いきれないことから、閉校するわけにはいかないようだ。同校も対象校ウマルシ小の司書教師だったムサバラ先生が異動となり、本のリクエストを受けていた。ムサバラ先生は読書の大切さを認識されており、ウマルシ小当時も大変活発に活動に携わって下さったので、小さなコーナー図書室も効果的に活用されることと思う。



ンドウンゲ小



インコンバ小

(TAAA南ア事務所 平林薫)

2022-10-13

州農業省からのMOATS (ムタルメ有機農業塾) 便り



キャベツの苗床作り



ゼロ・ハンガー（ZERO HUNGER）菜園では、多様な野菜が作られている



2016年7月～2019年4月に実施したJICA草の根事業「有機農と業塾を拠点とした農村作り」では、小学校の敷地内に有機農業塾MOATSを設立し地域住民に有機菜園指導を行ってきました。事業終了後は地元を引き継がれ、州環境省、州農業省、地元の自治体、コミュニティグループなどにより積極的に活用され、地域住民への有機農業の普及の拠点であり続けています。

JICA事業のカウンターパートであった州農業省のギタさんから、「JICAとTAAIによってMOATSが地域に設置されたことをとても感謝している」といって、昨年未だにMOATSで行われた州農業省主催の研修会とその後の参加者の活動報告を届けてくれました。

以前はさとうきび栽培など換金作物用農業への支援に注力していた州農業省ですが、地域住民の小さな有機畑作りの意義を認識し、JICA事業後は、地域住民を対象に本格的な支援をはじめ、MOATSを拠点としてさまざまなプロジェクトを行うようになりました。その一つが「ゼロハンガー（Zero Hunger）・プロジェクト」で、有機栽培技術と知識を得た住民が、食料自給率を上げるために自家消費用の作物を栽培し、余剰作物は地域内で販売する取り組みです。このプロジェクトでは、近隣住民用に畑で野菜を直売することを「ファームゲート（Farm Gate）」と呼び、推奨しています。ファームゲートでは、売る側も買う側も運賃が節約でき、採りたてで栄養価の高い野菜が手に入ります。

（久我祐子）

### ムタルメ有機農業塾（MOATS）での農業研修と成果

MOATSの参加者は、害虫や病気から守られた品質の良い野菜を作る研修を受ける。このため研修では、栄養価を高める自然療法的対策や害虫・病気のコントロールが強調される。

苗作りの実演研修では、土や水の無駄使いを戒め、間作（土壌保護のための有機草生栽培や被覆作物植えなど）の実施も工夫し、各自の苗床を作ることを学ぶ。

マーケティングの実演研修では、収穫、品質評価、包装、価格付けを学んでいく。

研修を受けることで、参加者は各家庭で自家消費用の品質の良い野菜を作ることができるようになり、食糧確保につながる。余剰生産物は、ファームゲート（畑での販売）、MOATS販売所、さらにはSPARやBOXERといった地元スーパーでも販売され、地域の食糧補給に貢献できている。

クワズルーナター州農業省 カムキレ ギタ （翻訳 大友深雪）





ファームゲートで売られるほう  
れん草と玉ねぎ



MOATS販売所で売られる野菜



MOATSでの研修の様子

Page Top ▲

2022-8-23 日本

## 最後の出荷作業



8月20日に、積み上げた段ボールの山を作業所から搬出し、トラックに積み上げる作業を行いました。コンテナ輸送で本と教材を南アに届けるのは今回が最後ということで、10人の会員とサポーターが集まってくれて、一緒によい汗を流しました。

今回もオーシャンネットワークエクスプレス株式会社（ONE）様から、無償コンテナ輸送支援を賜ることになりました。また、タカセ株式会社様は、国内運送と通関業務を無償でお引き受け下さりました。

ONE様とタカセ様には、心からの感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

2トン車トラック2台が定刻に作業所に到着するやいなや、スタンバイしていた私たちは段ボールを持ち上げ、トラックに積み上げていきました。行進曲に乗ったかのように作業はテキパキ進み、30分後には189個すべての段ボールが2台のトラックに積み上がりました。総重量は2トン654キロでした。

英語の本5610冊、算数セット343個、サッカーボール138個、空気入れ10本が、これから海を渡って南アフリカに届けられます。

トラックを見送った後は、記念撮影やお菓子タイムで、しばし寛ぎました。段ボールも本もない作業所は「がら〜ん」としていて、どこか寂しそうでした。「こんなに広がったんだ」 私たちは改

めて面積を確認しました。作業所があったからこそ、30年間の総計で49万冊強の本を南アに送ることができたのでした。

ある支援者の方から「TAAAの活動は、グローバルなリサイクル運動だ」と言われたことがありますが、その拠点となり日本と南アを結んでくれた作業所に感謝したいと思います。

9月30日に作業場は閉鎖となります。今まで作業所にお越しいただいた全ての皆様、ありがとうございました。

(久我祐子)

Page Top ▲

2022-08-11 南アフリカ

### 算数セットに感動する生徒たち



モンドリ先生授業



算数セット授業

一時帰国から戻った6月より準備に取り掛かった算数セットを使った授業は、休み明けの第3学期より小学校5校の1-3年生を対象に開始となった。算数セットは各校に40箱ずつ寄贈し、生徒数の多いクラスでは2名が一箱を利用している。生徒たちはまず箱を見て「うわー」とうれしそうな声を上げる。指導員のモンドリが箱を開けて板とブロックを取り出し、「マジックを見せますよ」と言って板を逆さまにしてもブロックが落ちないのを見て、また「うわー」と感激する。

自分で箱を開け、ブロックを一つ一つ板に置くときの真剣な眼差し。一生懸命英語で数字を唱えながらブロックを数える小さな指。答えが解った時の誇らしげな顔。あまりに純粋で可愛くてたまに見惚れてしまう。もちろん、なかなかクラスについて行かれない生徒もあり、指を持って一緒に数える。授業は生徒にとって楽しみながら算数が学べる機会となっているが、私自身にとっても大変貴重な経験である。ウマルシ小の男性教師から「日本では子供たちが小さいころからこのような教材で算数を学んでいるからテクノロジーが進んだ国になるんだね。こんなに素晴らしい教材とメソッドを紹介してくれて感謝している」とのメッセージがあった。

算数セットを寄贈してくださった皆さまに現地で有効に利用されていることをご報告し、改めて感謝の気持ちをお伝えしたい。

(TAAA南ア事務所 平林薫)

Page Top ▲

2022-07-23 日本

## 作業所閉鎖に伴う本・算数セット・サッカーボール収集終了のお知らせ



早いもので1992年にTAAAが市民団体として発足して以来、30年が経ちました。

この間、多くの団体や個人の皆さまから、英語の本、サッカーボール、算数セットのご寄贈を賜ってまいりました。

私たちが、全国から本や教材を収集し、種分け・梱包作業を行い、南アに輸送するまで保管できたのは、今まで43.4平方メートルの広さを持つ作業所をお借りすることが出来たからです。しかし、大変残念なことです、この度、諸事情により作業所を閉鎖することになりました。

代わりとなる場所を見つけることは難しいため、**作業所閉鎖に伴い、本・算数セット・サッカーボールの募集も終了させていただくことになりました。**

現地で圧倒的に不足している英語の絵本だけは、しばらくは今まで通り収集していきます。

積み上げられた段ボールの山を8月に南アに送り出し、9月末に作業所を閉じます。今まで良質の本、サッカーボール、算数セットをご寄贈下さった皆さま、梱包作業にご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。深くお礼を申し上げます。

これからは、日本から本・教材を送らない分、南アで購入する本を増やして学校図書室を支援していくことになります。

引き続き、現地での学校支援活動へのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(久我祐子)

[Page Top ▲](#)

2022-5-30 南アフリカ

**今年度もドウエシューラ学区の学校支援を続けます**



3月31日に外務省NGO連携無償資金協力による、ドウエシューラ学区の12校を対象とした図書事業が終了した。第1年次半ばにコロナ禍となり、活動が思うように進まない時期もあったが、期間を



延長させていただいたことや、対象校では司書教師や図書委員会生徒の頑張りもあり、活動を滞りなく行うことができました。現在、久我代表と共に事業完了報告に取り掛かっている。

対象校ではこれまでに図書委員会の引継ぎを3回経験したことで、今年度の学校開始時にはスムーズに活動を再開することができた。前年度から引き続き委員会に参加した生徒が新メンバーに指導をしたり、リーダーとして積極的に図書活動に取り組んだりする姿が見られることは大変喜ばしい。また、第2年次にはパソコン指導を取り入れたことから、ITに興味を持つ生徒が出てきており、図書室利用のモチベーションともなっている。今後は蔵書の補充や活動の進捗モニタリング等を州教育省図書部門担当者が行うことになるが、TAAAもできる範囲のサポートを継続して行う予定である。

各対象校では図書室設備の改善と利用が進んできているが、今後、学校全体での図書室利用を促進し、利用者数の増加を目指したい。特に小学校高学年以上の男子生徒の中に読書を敬遠するケースが見られるため、彼らが興味を持てるような書籍やプログラムを取り入れる必要がある。また、これまで図書活動は主に小学校高学年以上の生徒が中心で行われていたことから、今年度は低学年の生徒が本に親しむ機会を持てるよう、読書促進を行いたい。できるだけ早い時期に読み書き力と共に計算力も身に付けさせることが重要なため、小学校5校を対象に算数セットを利用した指導を行う準備も進めている。

(TAAA南ア事務所 平林薫)

Page Top ▲

2022-04-03

## IT技能指導ならびに図書委員会生徒によるITピア指導を実施しました



2021年1月より開始となったNGO連携無償資金協力によるドウエシューラ学区12校での図書事業は、コロナ禍による影響で活動に遅れが見られたため3か月の期間延長をさせていただき、3月末に完了となる。

2年次は図書活動推進に加えて、図書室をリソースセンターとして利用できるようノートパソコンとプリンターを配備し、図書委員会生徒を中心に基礎的なIT技能指導を行った。事業後半には履歴書作成を行い、高校生は“これをもって面接に行くぞー”と冗談を言い合っていた。また、パソコンの図書活動への利用として、これまで手書きで行っていた“本の受け入れ登録作業”をパソコン内で処理できるようになった。

そして、学校内で広く生徒の図書室とパソコン利用を推進するため、図書委員会生徒が他の生徒へのITピア指導も行った。対象地域ではまだコンピューターを利用している家庭は少なく、生徒の

ITへの興味は大きい。友達や後輩に楽しそうに、また誇らしげに指導する委員会生徒の姿が見られた。1台のパソコンとプリンターではあるが、生徒が比較的自由に利用できることは大きな利点である。

ただ、小学校高学年の図書委員会男子生徒から、“コンピューターを教えるから図書室に来て”と伝えたところ、“休み時間は図書室より外でサッカーの方がいい”と言われてしまったとの話があった。もちろん生徒の成長の中でスポーツはとても重要であるが、これは図書室利用促進全体に関わる課題である。今後も生徒に本への興味を持たせ、“図書室に行くのが楽しい”と思ってもらえるような活動を取り入れていきたいと考えている。

(TAAA南ア事務所 平林薫)

Page Top ▲

2022-03-24

## 新型コロナ禍に見舞われたまま明けた2022年の3月

コロナ禍に見舞われたまま明けた2022年も、3月中旬過ぎまで蔓延防止措置が延長され、埼玉での梱包作業へのHPからの呼びかけは自粛せざるをえませんでした。

そんな中、昨年から報告されてきた現地での小学生用の本不足に対応するため、集まれるメンバー3~4人で、小学生用の絵本を一箱10kg未満で船便の国際小包を梱包し、先日3月4日には、11月、12月に引き続き、皆さんからいただいた切手やハガキ（当方で切手に交換）を活用して7箱（473冊）送り出しました。



中央大学杉並高等学校生徒さんからのプレゼント

昨年度までのような、年1回のコンテナ船による輸送がいつ出来るか分からない現状では、現地の需要が高いものは、今後もこの間実施してきた船便の国際小包で送ることを考えざるをえません。このようなわけで、切手や書き損じ・未使用ハガキのご寄付を引き続き募らせていただき、どんな額の現金寄付も郵送料としてありがたく使わせて頂きます。ご協力のほど、どうぞよろしくお願い致します。

一方、今年度最後の作業日となった3月20日には、中央大学杉並高等学校の生徒さんたちがボランティアプロジェクトとして取り組んで下さった「作品群」が届きました。集めて下さった書き損じ・未使用ハガキと切手の他に、ズールー語のラベルを貼った「ぐりとぐら」、「Big Beanie and the Long long Beans」、「The Story of the Little Mole」、「Lend It to Me Please」など「両親が出てこない。仲間と力を合わせる」ストーリーを選び、英訳して作製して下さった本の数々、そして読書とは切っても切り離せない葉、それも一つ一つ見入ってしまうほどの色合いと凝った折りの作品が16枚添えてあったのです。これを手にする南アの子ども達の歓喜が想像でき、自分たちでも独創的な葉作りを始めてくれることを大いに期待したいと思います。

(大友深雪)

Page Top ▲